

横浜市立荇田西小学校

4月号

荇田西小だより

令和8年4月7日

校長 矢崎 純一

桜が告げる「たくましさ」と「しなやかさ」

正門横の桜が、例年になく足早にその薄紅色の花びらを広げ、子どもたちの登校を温かく見守っています。今年の横浜の冬は、身を縮めるような厳しい寒さと、ふとした拍子に訪れる春のような温もりが交互にやってくる、非常に振れ幅の大きい季節でした。

この「寒暖の差」こそが、実は桜にとっての大切な目覚まし時計となりました。厳しい寒さが蕾を深く眠らせ、その後の暖かさが「もうすぐだよ」と優しく肩を叩く。この刺激の繰り返しが、桜の眠りを呼び覚ます「休眠打破」を確かなものにしました。そこへ追い打ちをかけるように、二月下旬からの記録的な暖かさと、三月の異例ともいえる高温が蕾の背中を力強く押ししました。冬の間にはしっかりと蓄えた生命力が、春の陽光によって一気に解放され、全国的にも稀に見る早い春の訪れとなったのです。

この桜の姿は、まさに今、私たちが子どもたちに育みたい姿そのものであると感じております。折しも今年の三月、今後四年間を見据えた「第五期横浜市教育振興基本計画」が公表されました。本計画では、先行きの不透明な時代を生き抜くための指針として、「自らの人生を舵取りするたくましさ」、「多様性や変化を受け止め、可能性を広げるしなやかさ」、そして「世界の人たちと新しい価値を創り出す力」が重点事項として掲げられています。

冬の厳しさに耐え、劇的な気象の変化をもしなやかに受け入れて大輪の花を咲かせた正門の桜のように、子どもたちにも、自ら考え行動する力や、多様な人々と協働して困難を乗り越える力を育んでほしいと願っています。

変化の激しい社会にあっても、自分の根をしっかりと張り、周囲と調和しながら新しい価値を創造していく。そんな「たくましさ」と「しなやかさ」を育む教育活動を、本校の柱に据えてまいります。

学校・家庭・地域が手を取り合い、子どもたちの成長を多角的に支えていくことが、何よりの栄養となります。本校においても、この教育計画の理念を大切にしながら、子どもたちが安心して学び、失敗を恐れずに何度でも挑戦できる学校づくりに取り組んでまいります。本年度も、皆様の温かいご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。